|  |  |
| --- | --- |
| いわての授業づくり３つの視点 | 情報活用能力育成の場面（例） |
| 学びのイメージ | 児童生徒の活動 | 教師の視点 | 基本的な操作等 | 情報モラル |
| 視点１ 「学習の見通し」 | ■児童生徒の姿■ | １ 自らの気づきや考え、学習経験などを基に、友だちや先生との対話を通して、主体的に学習課題を見い出している。２ 課題解決に向けて、既習事項（用いるもの）や、考え方（用い方）を確認し、解決方法や結果を予想している。 | 明確な課題意識をもって、主体的に情報を集める | 情報の収集 |  |  | ①学習問題・課題への興味・関心を持つ②必然性のある課題の設定③収集方法の検討④解決方法・探究の見通し・予想⑤対話的な課題づくり⑥グループや学級での疑問・解決案の表出⑦チームづくり⑧情報収集の分担⑨課題の確認⑩単元、題材の基礎となる知識や技能の習得⑪情報収集の質と量の吟味⑫収集した情報の検証⑬振り返りの機会 | ①児童生徒が自分事としてとらえられる、必然性がある資料②児童生徒の気づきや考え、興味・関心から生まれる問い③既習事項、手段、場所・相手、キーワード、質問、考え方④指導の計画⑤アイデアを選ぶ条件や優先順位⑥ブレインストーミング、付せん紙の活用等⑦生活班、課題別グループ⑧テーマごと、手段ごと⑨目指す資質・能力との対応⑩構造的な板書の計画と工夫⑪信頼性、多面的、読み解きの適正量⑫信頼性、新規性、許諾条件の確認⑬計画の評価・調整をする機会 | キーボード入力（ホームポジション）、マウス操作、ファイルの保存（端末、クラウド含む）、充電、ペン入力、写真、動画の撮影、Webページのタブ操作、アプリの利用等 | 知的財産権（著作権等）、肖像権、情報セキュリティ、ネットの特性等 |
| 【授業づくりのポイント】 | ア 単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、育成を目指す資質・能力を児童生徒の姿で具体化する。（目標と評価規準の明確化）イ 児童生徒の気づきや考え、興味・関心から問いを引き出しながら、必然性のある学習課題を設定する。ウ 児童生徒が、課題解決の方法や過程についての見通しをもったり、振り返ることができるように構造的な板書（キーワードを示す等）を計画する。（視点 １～３に共通） |
| 視点２「学習課題を解決するための学習活動」 | ■児童生徒の姿■ | ３ わからないところは自分で調べたり、友だちや先生に質問したりして、見通しをもって主体的に課題解決に取り組んでいる。４ 自分の考えを、友だちの考えと比べながら見直し、よりよい考えに修正しながら、理由や根拠がわかるように表現している。 | 思考を働かせ、自分たちの考えをつくりあげる | 情報の編集（整理・分析） | 表現・発信 | ⑭手段を選択する⑮分析方法の検討⑯表現方法の検討⑰表現・発信の型や制約条件の確認⑱集めた情報の共有と取捨選択⑲対話による意見の相違や評価⑳解決策・改善点の見直しや修正㉑発信内容の点検㉒教科の見方・考え方で整理・分析㉓情報の構造化・傾向の発見㉔思考・表現を支える技能の習得㉕振り返りの機会 | ⑭分析・表現方法の選択⑮情報の質や課題解決の方向性から判断⑯分かったことや発信場面・手段から判断⑰スライド構成、発表時間、根拠資料⑱共通点・相違点や関連性、取捨選択⑲提案と根拠、対立点の視覚化⑳妥協点の模索、情報の再収集㉑相手を意識した工夫の相互評価㉒視点やキーワードの設定㉓思考ツール、表やワークシート、構造的な板書の工夫㉔似た問題の例示、失敗例から改善策㉕計画の評価・調整をする機会 |
| 【授業づくりのポイント】 | エ 児童生徒が各教科等における「見方・考え方」を働かせながら、主体的に課題解決に取り組めるような学習活動を充実させる。オ つまずきを想定して学習活動、支援方法を計画し、児童生徒が粘り強く取り組めるようにする。カ 目的に応じて、ペア等のグループ活動を位置付け、児童生徒が対話的な学びを通して、自分の考え等を評価したり・改善（自己調整）したりすることができるようにする。 |
| 視点３「学習の振り返り」 | ■児童生徒の姿■ | ５ 単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、できるようになったことやできなかったことなど、課題解決の過程や成果を自分の言葉で表現している。６ 評価問題等を通じて身に付けたことを振り返り、課題解決の達成感や学習内容の有用感を感じながら、次時の学習や今後の生活に結びつけている。７ 自身の学ぶ態度（粘り強さ、自己調整力等）に変容を自覚している。 | 相手意識をもって伝え、自分たちの学びをふりかえる |  | ㉖発表前の目標の設定㉗発表後の自己評価㉘単元・題材全体の振り返り・評価㉙新たな課題の発見㉚課題と成果物にあった振り返りの設定㉛実際の評価㉜フィードバックの確保㉝伝わったこと・伝わらなかったことの確認㉞発表に対するルーブリックの確認㉟質疑応答のレベル設定㊱他の班の成果との統合㊲学習成果を個別に総括 | ㉖伝え方の目標、伝える目的の確認㉗伝え方、質疑、準備状況の振り返り㉘課題解決の過程や成果を表現㉙さらに深める、次の機会、他の方法㉚発表時間、手段、空間、進行㉛リアルな発信相手の設定㉜アンケート、コメントカード、質疑、等㉝成果物の再点検㉞発表内容・発表の仕方㉟事実確認・意図や理由・成果の発展㊱多面的、複数視点で考察、関連づけ㊲学習課題に立ち返る、学ぶ態度の変容、達成感、有用感 |
| 【授業づくりのポイント】 | キ 単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、学習内容や学習方法 、課題解決の過程等 、学んだことを自覚できるよう促す。ク 評価問題や、児童生徒の自己評価 ・相互評価等 により、児童生徒が達成感や学習内容の有用感を得られるようにする。 |

Ⅳ　情報活用能力を育成する場面の例

※資質・能力を育成する効果的な指導について、１単位時間の授業展開のみならず、教科等の特質に応じて、単元や題材等のまとまりで資質・能力を身に付けさせることも重要であることから、上表の内容について、必ずしも１単位時間当たりの授業に盛り込まなければならないものではない。